

# 経営比較分析表

香川県 三木町

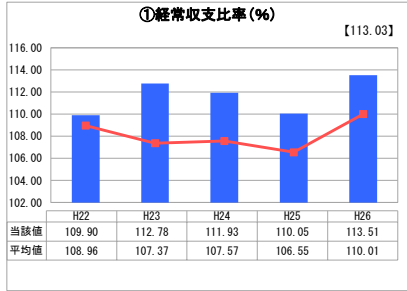
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	59.40	97.72	3,399

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,805	75.78	380.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,050	41.40	677.54

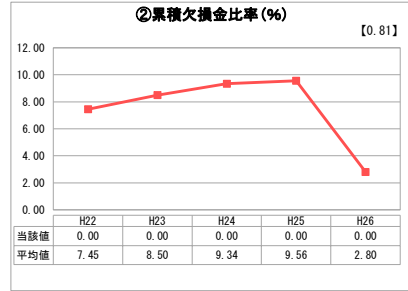
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

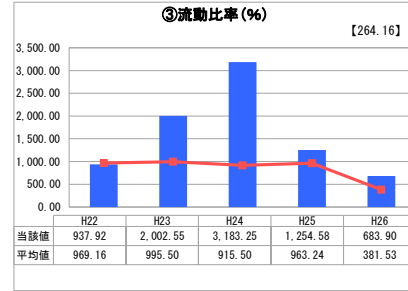
## 1. 経営の健全性・効率性



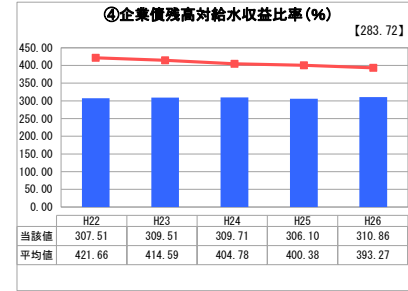
「経常損益」



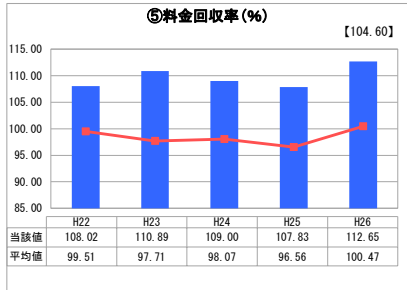
「累積欠損」



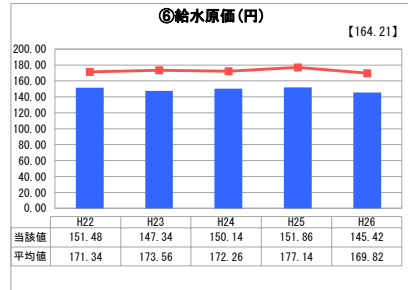
「支払能力」



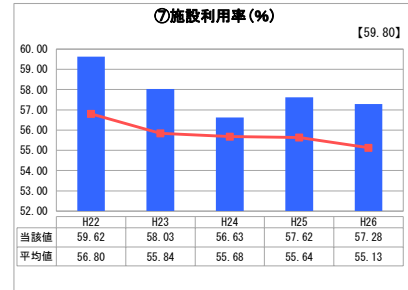
「債務残高」



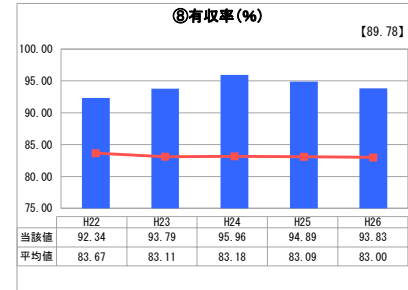
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

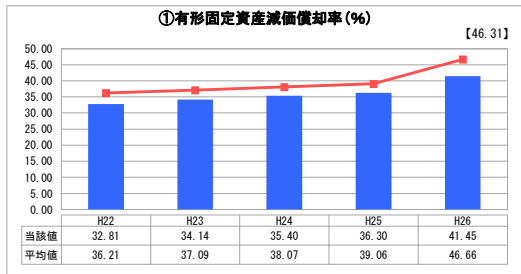


「施設の効率性」

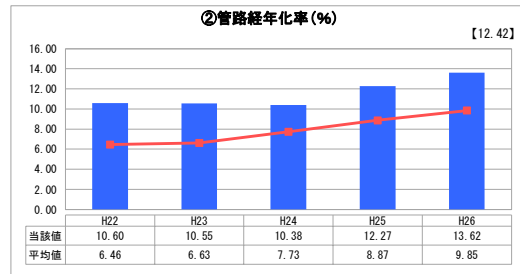


「供給した配水量の効率性」

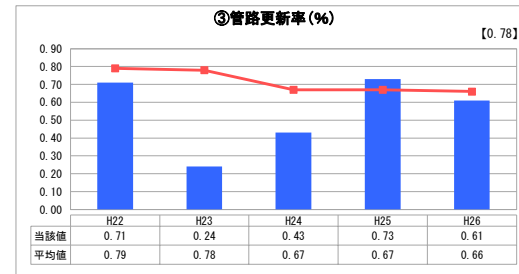
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営としては、①「経常収支比率」、⑤「料金回収率」、⑦「施設利用率」⑧「有収率」について、類似団体の推移と似ており、また、本町の数値は、類似団体よりも上回っている。加えて、⑥「給水原価」については、類似団体よりも本町の数値は低くなっている。

これらのことは、経営としては、健全性・効率性については、良好であると分析できる。今後は、この状態を継続するように努めていく。

③「流動比率」について、平成24年度は、当町の数値が高いが、この年度は未払い金が少なかったことが要因であり、工事規模は毎年度と大きな差はない。また、平成26年度の当町の数値が低くなっているのは、「地方公営企業の会計制度の見直し」によるものである。これは、類似団体の推移が似ているので同様と考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

③「管路更新率」について、平成23年度については、管路更新率が低いが、この年度は地元の要望等で、新設管路工事が多かったため、更新管の工事が少なくなっている。平成24年度については、施設の更新工事と大きな新設管路工事を実施したために当町の数値は低くなっている。

老朽管の更新工事については、石綿管更新を中心に計画的に実施している。

## 全体総括

良好な経営を保持しながら、管路の更新や施設の整備などを計画的に行い、安定した水の供給に努める。

また、平成29年度より、簡易水道事業と経営統合し、合理化を図りながらの経営につとめていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表

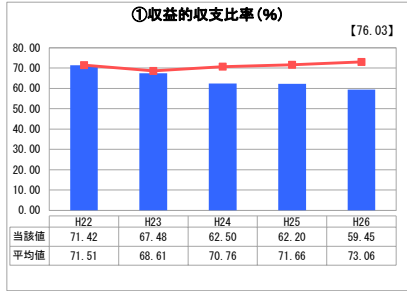
香川県 三木町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.55	3,087

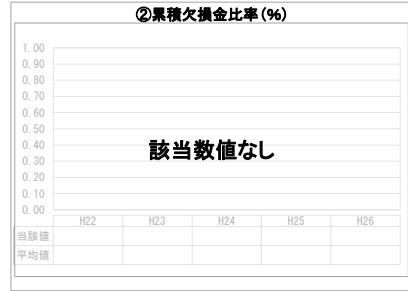
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,805	75.78	380.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
157	0.72	218.06

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



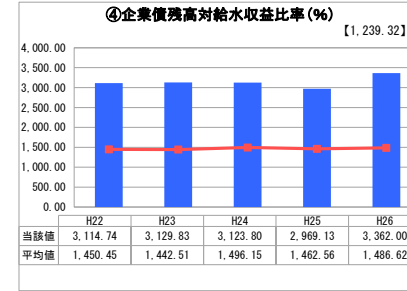
「単年度の収支」



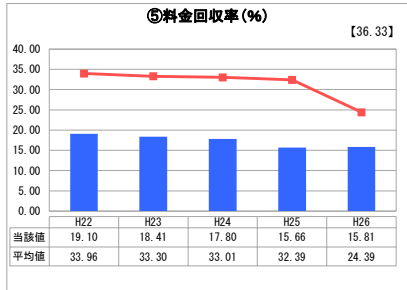
「累積欠損」



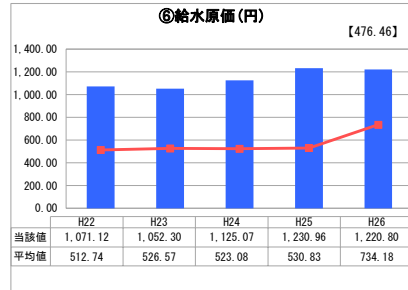
「支払能力」



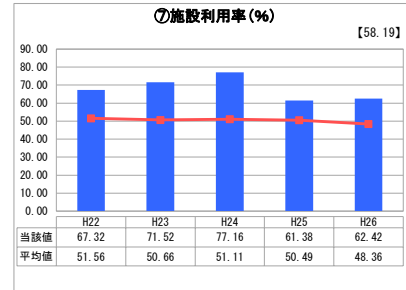
「債務残高」



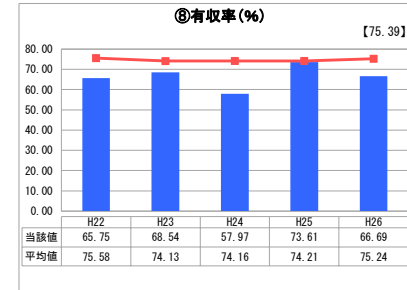
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

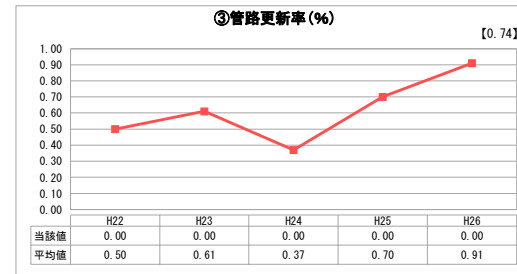
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

類似団体と比較して、①「収益的収支比率」が低いのは、給水人口が極端に低く、施設の維持管理等を実施しているため、給水収益だけではまかないきれない状況である。そのため、一般会計から繰入を受けながら運営している。

また、維持管理費については、利用者への安定した水の供給を損なうことにつながるため、抑えることは難しい。このような状況の中で、経営の健全性・効率性を引き上げていくことは現状では困難である。

平成29年度からの上水道事業との経営統合後に、経営を一本化して、合理化を図り、経営の健全性・効率性を引き上げていく計画である。

### 2. 老朽化の状況について

給水開始から、約30年経過しているが、耐用年数を経過した管は今のところなく、不良箇所は修繕工事をして対応している。

水道事業と経営統合した後は、更新計画を作成して、それに基づいて実施する必要がある。

## 全体総括

平成29年度から、上水道事業と経営統合して、運営する計画である。統合後は、上水道事業の維持管理の部分等を組み合わせながら、合理化を図り、経営の健全性・効率性を引き上げていく計画である。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表

香川県 三木町

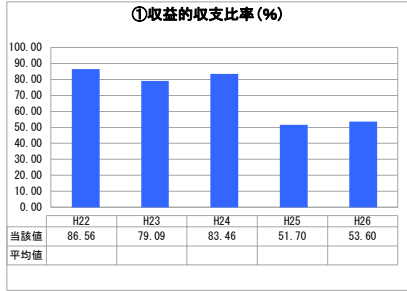
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.34	87.73	2,681

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,805	75.78	380.11
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
671	0.45	1,491.11

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



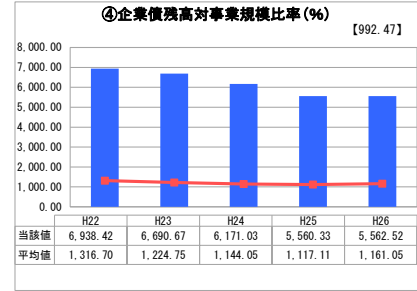
「単年度の収支」



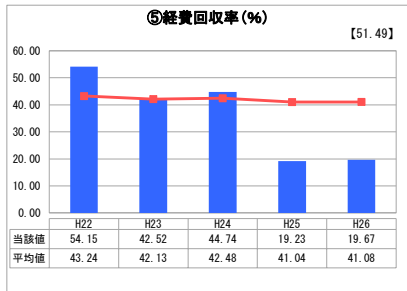
「累積欠損」



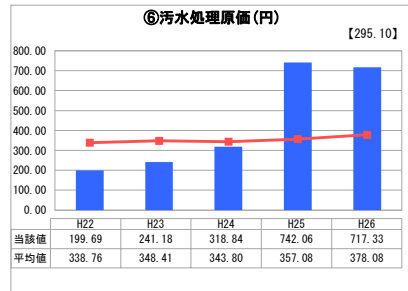
「支払能力」



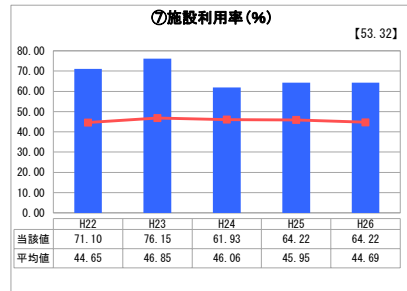
「債務残高」



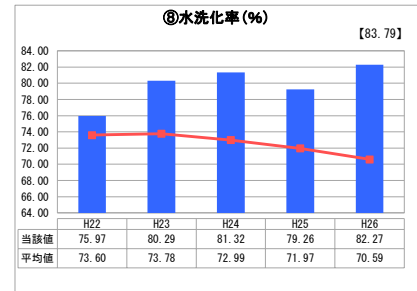
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

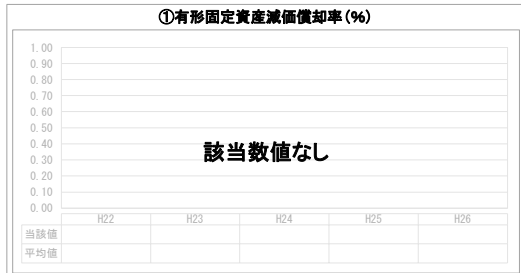


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

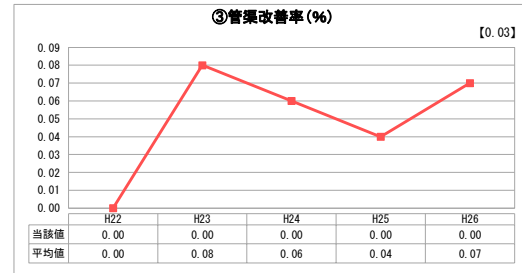
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成14年度に供用開始している井上北部地区については、施設利用率及び水洗化率が類似団体平均値を上回っている一方で、現在整備を進めている井上南部地区(平成29年度供用開始予定)、三木東地区(平成31年度供用開始予定)の供用開始前施設に係る地方債元金の償還が平成25年度より本格化したことに伴い、収益的収支比率及び経費回収率が類似団体平均値を大きく下回っており、汚水処理原価は高くなっています。また、企業債残高対事業規模比率についても、供用開始前施設に係る地方債が含まれていることから類似団体平均値に対し比率が高くなっています。

なお、現在の経営状態については、未供用地区(井上南部地区・三木東地区)での整備が完了し、供用開始に伴い使用料が徴収されることにより、改善が図られると考えています。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始後13年が経過する井上北部地区における管渠施設については、供用開始後間もなく、耐用年数を超過していないため、これまでにクラック、破損及び腐食等管渠の劣化は確認されておりません。比較的耐用年数の短い機械・電気設備については、更新および修繕時期が一時期に集中すること避けるため、修繕の必要性、緊急性、優先度を総合的に判断し計画的な機器更新及び修繕を行なっています。

## 全体総括

供用開始している井上北部地区については、今後も、引き続き適切な点検や診断により、処理施設の長寿命化工事を行うなど更新費用の平準化を図り安定した経営に努めます。

現在、整備を進めている井上南部地区、三木東地区についても、国・県からの補助金のほか、地方債の借入、一般会計からの繰入金の充当により建設工事を進めています。下水道施設の整備には多額の費用を必要とするため、より効率的かつ計画的に整備を進めていく必要があります。

また、今後、供用を開始する2地区については施設利用率及び地区内水洗化率の早期向上に取り組み、事業経営の健全化・効率化に努めます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。